

平成 23 年度 第 2 回 JICA コミュニティ防災研修 - JICA Community Based Disaster Risk Management -



神戸国際協力交流センターにて講義

研 修 期 間：平成 23 年 10 月 17 日～11 月 25 日
(6 週間)

研 修 場 所：神戸市/宮城県/和歌山県

研 修 内 容：参加研修員の自国のコミュニティにおける
対自然災害防災活動推進方法習得に関する
講義/視察

参加研修員：10ヶ国 14 名（アルメニア 1、グアテマラ 2、
ホンジュラス 1、ラオス 1、ミャンマー 2、
ネパール 1、フィリピン 2、パナマ 1、
パキスタン 2、ソロモン 1）

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、コミュニティ防災研修を実施しました。通算 5 回目となる本研修は本年度より当財団が受託機関となり、神戸市消防局と協力のもと、研修の実施運営にあたりました。本年は自国で住民主体の防災活動を推進する立場にある自然災害を多く経験している 10 か国の中央ならびに地方の行政官を迎え、神戸市内及び宮城・和歌山にて 6 週間の研修を行いました。

本研修は、自然災害に対する防災の重要性、中でも住民主体の自主防災組織を通じた地域コミュニティの防災力向上について学ぶことを目的としています。研修では、神戸における取組みの代表的な例として「防災福祉コミュニティ¹」を取り上げました。防災福祉コミュニティでは、メンバーによる日ごろの地域活動で培われた団結力や訓練などで学んだ防災知識を災害時にも活用できることを目指しています。災害緊急時には行政による「公助」を待つのではなく、住民が互いに助け合いながら自分達の地域の安全を守るという「自助」「共助」が何よりも重要となるからです。

研修員は、「防災福祉コミュニティ」を中心に、神戸市が取り組む防災教育システムや市民向けの防災普及の取り組みを学び、市外の視察先として、3 月の東日本大震災で津波の被害を受けた宮城県・南三陸町および伝統行事を通じて津波の教訓継承を行う和歌山県・広川町を訪問しました。また、研修修了前には神戸市長を表敬訪問し、矢田市長からも励ましの言葉をいただきました。研修最終日には、滞在中の講義・視察を通じて考察した自国のコミュニティ防災のあり方、市民への普及促進策について内容発表を行いました。

¹：防災福祉コミュニティは阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災取組みであり、小学校区ごとに結成された住民組織です。安全で（防災）安心して（福祉）暮らせるまちづくりをめざし、防災活動や福祉活動に取り組んでいます。



～研修を振り返って～

近年世界各地で多発している自然災害において、コミュニティに根差した防災活動：「コミュニティ防災」の重要性が高まっています。

「防災活動」「予防活動」というと、沢山の専用道具を買って、新しい機材や設備を導入して…と、費用がかかるハード面の対策に考えが行きがちになりますが、地域の危険箇所・避難経路を考えるハザードマップ作りや防災訓練・避難訓練の実施など、費用を投じずともとれる対策は数多くあります。重要なことは、「防災」意識を高めること、活動を実践すること、そして何よりもそうした活動を持続させることです。

数多くの講義視察の中でも研修員が特に興味を示したのは、子供たちへの防災アプローチです。何事にも意欲的に学ぶ子供たちへ防災について教えることが出来れば、いざという時に自分自身を守ることできますし、家族や親しい大人たちなど、周囲の大人を巻き込んで防災を学んでもらうことも可能です。一見すると堅苦しい印象を持たれがちな「防災」、そんな「防災」を楽しんで学んでもらう取組紹介として、本研修では「イザ！カエルキャラバン」をはじめとして多くの防災イベントを実施している大阪のNPO法



フラフープゲームを取り入れては？(パナマ)

人プラス・アーツ代表に講義をしていただきました。「地震でがれきの下になってしまった人を助けるためには、どの手段が有効でしょうか？」など災害時の対応を考えるカードゲーム、水入りペットボトルを中に入れて50kgもの重さのカエル人形を毛布担架で運ぶ救援ゲームなど、同NPOが独自に開発された防災ゲームの数々には研修員全員が参加、強い関心を抱いていました。この講義終盤には研修員それぞれが自国での防災イベント実施内容を考えるワークショップを行いました。フラフープを使ったり、国の人気アニメキャラクターの着ぐるみを登場させたりと、研修員出身国独自のアイデアが数々登場し、研修員・関係者間で数多くの意見交換が行われ、非常に盛り上がった講義となりました。

神戸市外では宮城県・和歌山県への現地視察を行いました。3月の東日本大震災で津波の被害



南三陸町・防災対策庁舎跡地にて

を受けた南三陸町視察では、津波の痕跡が残る町の様子を前に、初めて目の当たりにする被害の様子に一同ショックを隠し切れない様子でした。被災後の復興に取り組む現地コミュニティの方々からの講義では研修員全員が真剣な面持ちで聞き入っていました。「一日も早く町が復興を遂げ、人々が以前の生活を取り戻せるように」そう言いながら、復興支援ショップで地元住民の方々がつくられた土産用タオルなどを手に取り、支援に少しでも役立てばと購入する研修員の姿が印象に残っています。

上記で述べた以外にも、阪神淡路大震災後に神戸市の復興計画に携わった神戸市職員、世界中で防災の調査活動を行う研究員、途上国でコミュニティ防災推進活動を行ったJICA青年海外協力隊帰国隊員、阪神淡路大震災での自身の経験を伝える人と防災未来センター語り部、神戸で防災教育に携わる教師、そして市民のために日々尽力する神戸市消防局職員など、研修では様々な立場から防災に携わる講師の方々から講義を受け、研修員は防災について多角的に学ぶとともに、



防コミ訓練にも参加しました！

何度も自然災害の被害を受けても立ち上がる日本の力強い前向きな姿勢を学ぶことができたのではないかと思います。世界中で自然災害が多発する現在、研修員が日本滞在中に得た知識・経験を今後それぞれの自国コミュニティ防災推進活動に活かし、一人でも多くの人々が災害から守られることを期待しています。

研修担当：後藤田 蒔子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)兵庫国際センター

研修指導機関：神戸市消防局予防部予防課

講義/視察先：ガジヤマダ大学(インドネシア)/神戸学院大学/神戸鈴蘭台高等学校/舞子高等学校/本庄小学校

JICA 青年海外協力隊 OB/和歌山県広川町役場総務政策課/呉市消防局/神戸市消防局/神戸市教育委員会/神戸市民防災総合センター/(財)神戸都市問題研究所/岩屋防災福祉コミュニティ/灘南部防災福祉コミュニティ/高羽福祉協議会/南三陸町社会福祉協議会/南三陸町教育委員会/すばらしい歌津をつくる協議会/志津川漁業協同組合

アジア防災センター/人と防災未来センター/SEEDS Asia/プラス・アーツ/FM わいわい

【順不同、敬称略】



～研修員の声『神戸を訪れて（要約）』～

Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』



国名：グアテマラ



名前：Ms. Carlota Lucia CORDON GONZALEZ

所属：グアテマラ国家防災協議会 CONRED 災害対策支援担当官

Kobe is a beautiful city; you can find culture, great food, shops, restaurants, museums, Chinatown, and most important friendly people that help you all the time. But there is more to see and learn from Kobe, than just these...

Kobe suffered from an Earthquake on 1995. It's impressive to see all the improvement they have done after these years, I'm not talking only about re-building the city into a cosmopolitan area, I'm talking about implementing a Disaster Risk Management culture to give citizens self-confidence that if something happens again, there are well prepared.

After a month and a half, in Kobe, I can say that I discover not only a cosmopolitan city, but also a well prepared city that care about citizen's safety and share with others what they have learn from their own experience. In addition I have earn: new knowledge, that I can apply to my daily life and work; a new point of view from Japanese culture and people; motivation from Tohoku people that are recovering very well from Tsunami remains; and most important I have new friends from Japan and 9 participating countries from whom I learn that it doesn't matter where you live, there will be always someone trying to help communities by implementing a Disaster Risk Management culture. Thank you Japan for this opportunity and also Thanks to all the people involved in the coordination of this training course!!!!



神戸という美しい街には、文化、食べ物、店、レストラン、博物館、中華街、そしていつも優しく助けの手を差し伸べてくれる素晴らしい人達があります。神戸が1995年の地震から成し遂げた復興・進歩は大変すばらしいものであり、街を国際都市へと再建しただけではなく、防災の文化を市民に根付かせたことで、市民に災害対策の準備は万全であるという自信を与えています。

神戸での1月半の滞在を経て、神戸は国際都市であり、市民の安全を考え、自身の経験や教訓を国内外へも発信・共有できるような、万全の態勢を備えた街であると思いました。また、研修を通じて防災に関する新たな知識を得たことはもちろんですが、津波から復興を遂げる東北の人々からは日本文化・人々の新たな一面を、そして研修を通じて出会った世界各国の友人からは、世界中で多くの人がコミュニティ防災と真剣に向かい合っているということも知ることができました。

このような機会を与えてくださった日本、そして研修に関わったすべての方々にお礼を申し上げたいと思います。





国名：フィリピン 
名前：Mr. Abundio Jr. Villacorta NUNEZ
所属：アルバイ州公安危機管理局 部長

Being selected to participate in the JICA's training is indeed a good opportunity for people whose desire to promote disaster risk reduction forms as an integral part of their lives. The Training course on Community Based Disaster Risk Management "BOKOMI" enhances further my technical knowledge on DRR through the in depth lectures, actual field observations and workshops in the whole 6 weeks of training that was not only confined to Kobe City, with their experiences and good practices in response to the Great Hanshin Awaji Earthquake in 1995, but actual field exposure, as well, to the tsunami impacted areas of Japan due to the Great East Japan Earthquake in Tohoku on March 11, 2011.

Indeed, Japan, specifically Kobe City, aside from its beautiful places and sceneries, has gone a long, long way in its disaster risk reduction programs through community preparedness and mitigation using BOKOMI's Self Help, Mutual Help and Public Help approaches. Now we can say that "Kobe City is synonymous already to a safe community in terms of risk reduction", a feat worth replicating to all parts of the world.

Kudos should be given to the Japanese Government, JICA, JICE, KIC people, the Fire Bureau officials, JICA Hyogo

Center, the IFC and the people of Kobe in general for making our stay in Kobe City more knowledgeable, meaningful and memorable...

You guys deserved my heartfelt thanks and appreciation. Domo Arigato Gozaimasu!



防災を学ぶ我々にとって、JICA 研修に参加することはとても貴重な機会です。この6週間にも及ぶ「防コミ」研修の講義・視察・ワークショップを通じて、防災に関する知識を一層深めることができました。日本、特に神戸は、その美しい街並み・風景をもつ一方で、防災に関しては防災福祉コミュニティを通じた自助・共助・公助を通じたアプローチでもってコミュニティへの注意喚起を行い、長い、地道な取り組みを行ってきました。「神戸といえぱリスクに備えた安全な街(コミュニティ)」と言っても過言ではなく、世界中が手本とすべき偉大な功績であると思います。日本政府を初めとして研修に関わってくださった全ての人々へ、私たち研修員の神戸滞在を衷り多く有意義で、忘れられないものとしてくださったことに心から御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

